

醉花



千切れた雲の隙間に 映 波雲飄過的空隙之間 掩

ゆる今宵の月は
解けた帯によく似た 淡
い花模様
愛し君の唇が 口ずさむ
手毬唄
あの日の面影はもう 禍
夜最後の果て

映出今夜明月
恰似寬解下的腰帶上 淡
雅花紋
你可愛的小嘴 輕聲哼起
童謠小調
那日容顏已成爲 那夜災
禍最後的結果

根雪の下で芽吹いた意思
の
蕾は何処で咲くのだろ
う？
差しのべた手の温もりは
変わることなく

殘雪下破土而出的心意

花苞又會在何處綻放呢？

伸出の手 溫暖還尚未消
散

失くした物を忘れ去るよ
うに
過ぎ行く四季の移ろいに
道の端揺らぐ花よ 君は
今何思う

就像要忘卻那些失去的事
物
四季輪轉交替不停
路旁搖曳的花啊 你現在
又在想什麼

遠く滲む縹色 流々と旅
行く魚は
「己が運命」と散りても
羽瀬に惑いて

共長天一色の流水 絡繹
不絕的魚群
說是爲「自己的命運」而
犧牲 卻是困入了魚簍中

葉黒無く脆く碎けた命
（ツキ）の
欠片は何処へ還るだろ
う？
天翔けるその煌きは 語
ることなく

飄渺而脆弱的這已經破碎
的生命（殘月）
碎片該歸還於何處呢？
曾經在天空翱翔時的輝煌
也無人能訴說

共に朝まで話した夢を
紙の小舟に浮かべよう
長く続くこの旅路を 静
かに見送って

一同徹夜暢談的夢想
摺成小紙船浮在水面上
這段漫長旅途 只能靜靜
目送

君在りし日の あの彩り
よ
何時かまた音連れるよう
に
ぽつり、ぽつり 紡ぐ音
霊 夜風に乗せて

你尚在時的 那片光彩啊
要待何時才能傳來音訊
一點一滴 紡出的音符
乘上夜風

去りゆく物へ 捧ぐ思い
の
その儚さに止め処なく
瞼から落ちる玉は 何故
杯を染む

對遠去的事物 奉上思念
這片虛無感無處可安
眼角滑落的點滴 爲何濁
了杯中酒

又是一首以《碎月》爲曲調填詞寫的歌呢，算上之前翻譯過的《愛き夜道》和《月見桜》這已經是第三首了，看來我真的很喜歡《碎月》的曲調呢。聽過之前這兩首的人大概會感覺出來，雖然三首歌有共同的曲調，卻有不同的曲風，大多東方同人的音樂都是如此，因爲原曲都是神主ZUN的遊戲配樂，沒有歌詞，於是同人創作者根據各自的理解重新演繹成不同的二次創作。某種程度上，這很像自由軟件社區呢。

標題「^{すいか}酔花」，是個文字遊戲，因爲《碎月》這首曲調算是《東方萃夢想》的BOSS 伊吹萃香的主題曲，標題就是萃香^{すいか}這個名字的不同漢字轉寫。

曲風用詞非常古樸，以至於只看到了兩個音讀漢字詞（「意思」和「四季」），別的漢字都是訓讀，甚至作者給出的訓讀表記的一些詞的漢字寫法接近萬葉假名，而非現代更常用的訓讀漢字，看來作者是想模仿中古時代那段時期的日語風格。這古風翻譯起來也更困難，於是照例，標假名的同時給出字詞解釋。

ちぎ	くも	すきま	は	ちぎ	くも					
千切	れた	雲	の隙間に	映	千切	れた	雲	：	ちぎれ雲	，
ゆる	こよい	つき	の月	は	厚層雲	下流動的	斷片雲	。		
ほど	おび	に	あわ							
解	けた	帯	によく	似	た	淡				
はな	もよう									
い	花	模様								
いと	きみ	くちびる	くち	てまり	うた					
愛	し	君	の唇	が	口ずさむ	手毬	唄	：	手鞠歌	，
						明治時				
						期起	小孩	一邊	玩手毬	一邊

てまり うた
手毬 唄

唱的童謡。

ひ おもかげ まが
あの 日 の 面影 はもう 禍
よ も は
夜 最 の 果 て

ねゆき した め ぶ いし
根雪 の 下 で 芽 吹 いた 意思 の

つぼみ どこ さ
蕾 は 何処 で 咲 く の だ ろ う ？

さ て めく か
差 しの べ た 手 の 温 も り は 変 わ る こ と な く

な もの わす さ
失 く した 物 を 忘 れ 去 る よ う に

す ゆ しき うつ
過 ぎ 行 く 四 季 の 移 ろ い に

みち はじ ゆ はな きみ いま なに おも
道 の 端 揺 ら ぐ 花 よ 君 は 今 何 思 う

とお にじ はなだい るる たび
遠 く 滲 む 縹 色 流 々 と 旅
ゆ うお
行 く 魚 は

直譯：遠去的淡藍色融入
（天空），匆匆趕路旅行
的魚。

おれ さだめ ち
「己 が 運 命」と 散 り て
はせ まど
も 羽 瀨 に 惑 い て

はせ
羽瀨：一種類似魚簍的竹
製捕魚工具，漲潮時等魚
游入其中，落潮時把魚困
在裏面。

はかな もろ くだ ツキ
葉 黒 無 く 脆 く 碎 け た 命

はかな
葉 黒 無 く：現代訓讀漢字

の

寫作「^{はかな}夢く」，飄渺不定
的。^{ツキ}命：這裏命是当て
字，讀作^{つき}月。

^{かけら}欠片は^{どこ}何処へ^{かえ}還るだろ
う？

^{あま}天^か翔けるその^{きらめ}煌きは
^{かた}語ることなく

^{とも}共に^{あさ}朝まで^{はな}話した^{ゆめ}夢を

^{かみ}紙の^{こぶね}小舟に^う浮かべよう

^{なが}長く^{つづ}続くこの^{たびじ}旅路を^{しず}静かに^み見送^おって

^{きみ}君在りし^ひ日の^{いろど}あの彩
りよ

^{いつ}何時かまた^{おと}音^つ連れるよう
に

^{おと}音^つ連れる：現代訓讀漢字
寫作「^{おとず}訪れる」，到訪，
造訪。倒是原本的寫法「
^{おと}音^つ連れる」更能體現「帶
來音訊」的意思。

ぽつり、ぽつり^{つむ}紡ぐ^{おと}音
^{たま}靈^よ夜^{かぜ}風に^の乗せて

さ　　もの　　ささ　　おも
去りゆく物へ　捧ぐ思いの

はかな　　と　　と
その儚さに止め処なく

まぶた　　お　　たま　　なぜ　　さかずき　　そ
瞼から落ちる玉は何故　杯を染む